

念仏の声

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部
〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353
http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2021(令和3)年10月1日発行 vol.246



2021(令和3)年6月8日(火)開催「重点プロジェクト研修会」の様子

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要 ③

重点プロジェクト「貧困の克服に向けて」 ④

仏事に関する Q&A ⑤

- ・如燈風中 ②
- ・法話「人間に生れたること」 ⑥
- ・法話「浄土にてかならず まちまゐらせ候ふべし」 ⑦
- ・僧侶研修会報告
- ・書籍の紹介
- ・教務所(別院)からのお知らせ ⑧





ご縁を慶び、お念仏とともに

親鸞聖人御誕生

50

立教開宗

00

令和五年三月より、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要が、五期三〇日間、京都ご本山でご修行になります。五〇年に一度のご法縁として、皆様と共に宗祖のご誕生と、お念仏に遇えたことを慶讃し深く感謝したいと思えます。宗祖のご生涯と教団の歩みについては、ご法要を縁とした宗門内の様々で接することができると思いますが、書籍やDVDなど、是非お手元に取り寄せていただければと思います。『浄土真宗に帰すれども 真実の心はありがたし 虚仮不実のわが身にて 清浄の心もさらになし(正像末和讃)』「浄土の真実の教えに帰依しているけれども、このわたしがまことの心をもつことなどあり得ない。嘘いつわりばかりのわが身であり、清らかな心などあるはずもない(聖典現代語版)」これは宗祖が晩年に至り、ご自身の非常に深い罪業感の心中を悲しみ、歎きうち明けられ、虚仮でしかあり得ない身であることを自己内省されたお言葉で、「悲歎述懐和讃」とも呼ばれています。宗祖は九歳で天台宗の僧侶となり、二十九歳で源空聖人に師事し、自力の行を捨て本願に帰依され、専修念仏の教えを一心に求められました。私の勝手な想像ですが、源空聖人に師事した宗祖は、二〇年間の比叡山での勉学と修行とはうって変わり、本当に生き生きとした、喜びの中に毎日を過ごされたのではないかと。それは生涯の師に出会うことができた喜びと、その師によってお念仏の教えに出遇えた喜びからと想像していますが、宗祖の念仏生活には外圧による念仏停止などの苦難もありました。しかし、このような苦難に直面しても、宗祖はその状況を判断する基準がお念仏のみ教え

にあり、益々み教えを拠り所とするご生涯となっていくたのではないかと想像しています。しかし、先のお言葉は？・・・そしてこのお言葉を「宗祖個人が内省されただけ」と受け止めるだけでよいのかと考えさせられます。またご著述の年代は前後しますが、『まことに知んぬ、悲しきかな愚禿鸞、愛欲の広海に沈没し、名利の太山に迷惑して、定聚の数に入ることを喜ばず、真証の証に近づくことを快しまざることを、恥ずべし傷むべしと(御本典信巻)』「いま、まことに知ることができた。悲しいことに、愚禿親鸞は、愛欲の広い海に沈み、名利の深い山に迷って、正定聚に入っていることを喜ばず、真実のさとりに近づくことを楽しいとも思わない。恥しく、嘆かわしいことである(聖典現代語版)」と、うち明けられています。これら自己内省のお言葉は、み教えが人生の指針となったからこそ自覚することができた罪業感であると思いますが、これらのお言葉に触れるにつれ、この度のご法要を私自身がどのように受け止めお迎えするべきか自問するとき、慶讃、感謝と同時に、宗祖の自己内省のお言葉を私自身の中に深く刻み込むことで、自らを見つめ直すことのできる稀有なご法縁にしなければならぬと思います。

如燈風中



岐阜教区教務所長
御同朋の社会をめざす運動
岐阜教区委員会委員長

泉井敬文

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要期日

2023(令和5)年

- 第1期 3月29日(水)～4月 3日(月)
- 第2期 4月10日(月)～4月15日(土)
- 第3期 4月24日(月)～4月29日(土)
- 第4期 5月 6日(土)～5月11日(木)
- 第5期 5月16日(火)～5月21日(日)

法要時間

- 午前の座 午前10時
- 午後の座 午後2時

なお、5月18日(木)から5月21日(日)については、1日1座(午前)です。

また4月29日(土)、5月6日(土)及び5月7日(日)については、別途お知らせします。

詳しくは、宗派ホームページ等でご確認をお願いいたします。

<https://www.hongwanji.or.jp>



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要プロモーション動画の配信について

このたび、2023(令和5)年にお迎えいたします親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のご修行に向け、プロモーション動画を制作いたしました。

ぜひ、多くの皆さまにご覧いただきますとともに、慶讃法要へのご参拝を心よりお待ちしております。

<収録内容>

- オープニング
- 親鸞聖人のご生涯について
- 立教開宗について
- 法要の趣旨・期日について
- 本願寺(文化財)のご紹介と参拝のご案内
- エピローグ
- 愛唱歌「みんな花になれ」のご紹介

この動画は、宗派公式YouTubeチャンネルでも配信いたしております。

宗派公式YouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCDkZqZl8W5KAr2wGtym5TWA>



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要「ワッペン」について

2023(令和5)年にお迎えいたします親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要ワッペンを調製いたしました。慶讃法要に向けた機運高揚のため、ご希望の方には無料で送付いたします。

下記連絡先へお問い合わせいただき、ご希望の枚数や色、送付先などをお伝えください。

お問い合わせ先

親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要
法要庶務本部 総合情報センター
社会部 <社会情報担当>
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下る
浄土真宗本願寺派宗務所
TEL: 075-371-5181(代表)



重点プロジェクト

「貧困の克服に向けて」

宗門では2012(平成24)年より、『**結ぶ絆から、広がるご縁へ**』のスローガンのもと、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進しています。宗制に掲げられている「本宗門は、その教えによって、本願名号を聞信し念仏する人々の同朋教団であり、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もって自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献するものである」という基本理念の実現に向けて、お念仏にご縁をいただいた私たち一人ひとりが念仏者としての自覚を深め、浄土真宗のみ教えを社会へ広めつつ、具体的な社会貢献をめざしていく運動であるといえます。

その推進の中、2018(平成30)年より**<貧困の克服に向むけて～Dāna for World Peace～>—子どもたちを育むために—**を宗門全体の重点プロジェクト実践目標として定め、宗門に関わる全ての人々が一体感をもって取り組めるよう進められています。

貧困の問題は、SDGs(持続可能な開発目標)の1番目にも挙げられているように、世界規模で大きな課題として考えられています。ユニセフの報告書には「5.6秒に1人の割合で、幼い子どもたちが飢えによって5歳になる前に亡くなっている」とあり、世界中で7億人以上の人々、つまり10人に一人が一日200円以下の生活を強いられているといえます。また近年は日本においても子どもの貧困が注目されるようになってきています。

経済格差による貧富の差が貧困の問題をより大きくし、特に子どもをはじめとした社会的に弱い立場の方々がその影響を強く受けています。念仏者としてはもちろんのこと、同じ時代・同じ社会を生きる者としても、私たちはそのことに無関心でいるわけにはいきません。

戦後70年を契機として、宗門では改めて平和への学びを深め議論してまいりましたが、その中でも、貧困問題を克服していくことは平和への貢献に繋がるといことが明らかにされました。「平和」を単に戦争がない状態のことではなく、貧困や暴力・抑圧・差別などから解放され、平等・



生存・自由などの権利が無条件に保障されていることであると考えれば、貧困の問題を克服していこうとすることは、遠い道のりの小さな一歩かもしれませんが、平和へ繋がる確かな一歩であるといえます。

貧困問題への具体的な取り組みの一つとして、宗門では「子どもたちの笑顔のために募金」を立ち上げ協力を呼びかけています。集められた募金は、ネパールのカトマンズ本願寺を通じて現地の学校支援金として、また国内では「子ども食堂」「学習支援活動」に取り組んでいる寺院や団体への助成金、また全国に13施設ある本願寺派の児童養護施設の在園・卒園した子どもたちへの支援などに使われています。

実践運動・重点プロジェクトは「宗門を構成するすべての人が参画し実践する」ことを願っています。僧侶も門信徒も、お念仏にご縁をいただいたすべての人々が手を携え、身近なところのできることを少しずつ進め、ともに着実な一歩を歩んでまいりましょう。



御同朋の社会をめざす運動
岐阜教区委員会副委員長
長良組・妙楽寺

ちば じゅん
千葉 純

仏事に関する



Q 葬儀は、何のためにつとめるのですか？

葬儀をつとめると聞いて、皆さんは、どなたの葬儀を思い浮かべられますか？
今回は、ご自身の葬儀を考えてみましょう。
私の葬儀は、何のためにつとめてもらうのですか？



A 葬儀は、私がこの世でご縁があった方々に、最後にできるいのちの伝達です。



浄土真宗の葬儀は、成仏するための儀式ではありません。
必ず救うという阿弥陀さまのお誓い(本願)を聞いて念仏を喜んだ者は、その時既に浄土に往生し、
仏にさせていただくことが決まっています。阿弥陀さまが約束してくださっているのですから、成仏
するための儀式は必要ないのです。

人間のいのち終えても仏事の主役は私です。

- 臨終勤行(枕経)は、これまで念仏を喜んできた生活の総まとめ
- お通夜は、最後の夕方のおつとめ
- 葬儀の前の出棺勤行は、家のご本尊の前での最後のおつとめ
- 葬儀は、一人でも多くの方に、阿弥陀さまの法縁に出遭ってもらう場

導師に代表してもらい、家族や縁の深い人々
みんなでおつとめてもらいます。

全て、阿弥陀さまへの報謝のおつとめですから、
私の写真で阿弥陀さまや南無阿弥陀仏(名号)が
隠れてしまわないようにしてもらいます。

最後にこの世でのいのちには限りがあること
を知らせ、今生での出会いに感謝し、いのちの
尊さを知らせていきます。

しかし、今既に、阿弥陀さまのはたらきにより、
二度と死ぬことのない永遠のいのちを
賜りました。これからは、阿弥陀さまと共に、
大事な人に寄り添い導くはたらきをさせて
もらいます。だから、どうか「南無阿弥陀仏」と
念仏しておくと、伝える大事なチャンスです。

私は、迷ったりしません。阿弥陀さまが、この
世のいのち尽きた時、即浄土に生まれさせてく
ださるので、お棺を回したり、死装束や

守り刀は必要ありません。

私は、仏さまにさせていただくのですから、
崇ったりしません。茶碗を割ったり、塩をまい
たりする必要はありません。

誰かを道連れに引っ張っていくこともしま
せん。友引に葬儀を避ける風習がありますが、
気にしないでよいのです。友引というのは、元々
中国の宋時代に考案された占いの暦の言葉です。
先勝と先負の間であって引き分けの意味です。

「ご冥福をお祈りいたします」とか「草葉の陰で」
とか「天国で」と、お言葉を頂くことがありますが、
私は阿弥陀さまの世界(お浄土)に生まれさせて
もらい、仏のはたらきをさせていただきます。
死後の幸せを願ってもらわなくても大丈夫です。
お墓の周りにも、天国にもいません。

お浄土に生まれ、南無阿弥陀仏の阿弥陀さまと
共にあなたと共にいます。

人間に生れたること

白い艶々の炊きたてご飯と、旬の野菜をたっぷり入れた味噌汁をいただき、すべき事の合間には横たわり、少しの活字を読みながら眠りにつく。一日の終わりに、やわらかな子ども寝息が聞こえて来る。時には温泉に浸かりに行き、青空に浮かぶ雲や山々の緑を眺めて、言葉にならない感動を覚える。私の幸福な一時の光景です。ああ、願わくば、このささやかな日々が壊れることなく、静かに穏やかに続いていきますように…。生れてから今日に至るまで、わが幸福の追求の為に、朝から晩まで奔走しながら生きて来ました。

そんな私の上に、片時たりとも離れることなく、降り注いでくださる願いがあります。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。どうあっても大丈夫と。ふと、不思議に思う時があります。なぜ私は手を合わせ、お念仏を申させていただいているのだろうか。私が懸命に努力をして、追い求めて来た結果のお念仏ではありません。これを不思議と呼ばずして、何を不思議と呼ぶのでしょうか。

わが人生のどこを探しても、これ以上の不思議は見当たりません。

あるお寺の床の間に、一幅の掛け軸がありました。『まづ三悪道をはなれて人間に生れること、おほきなるよろこびなり。身はいやしくとも畜生におとらんや。家はまづしくとも餓鬼にまさるべし。心におもふことかなはずとも地獄の苦にくらぶべからず。世の住み憂きはいとふたよりなり。このゆゑに人間に生れたることをよろこぶべし』源信和尚の法語と伝えられている横川法語でした。お聖教を開かせていただくこと、三悪道を離れて仏法に遇うことのできる人間に生れたことは大きな喜びであると説かれてあります。三悪道とは、地獄(苦しみの極まった世界)、餓鬼(飢え渴きに苦しんでいる世界)、畜生(恥を知らない世界)のことです。自身の生き様を振り返ってみますと、この私こそが、三悪道の住人ではないかと思いました。思い通りにならないと嘆き、塩水を飲むが如く貪り、真実真理に暗い。どこが三悪道と違うのか、

同じではないかと思つたのです。

けれど一点だけ、違う所がありました。それは仏法を聞かせていただいている事でした。人間として生れさせていだいたのは、仏法を聞かせていただく為でありました。今ここで苦悩する私一人の為に、南無阿弥陀仏とられました。あなたの苦しみも喜びも悲しみも全部、この南無阿弥陀仏が引き受けた、ひとりじゃないよと届いてくださっています。どこか遠いお浄土で、待つておられる仏様ではありませんでした。苦悩多き人生を南無阿弥陀仏と生き抜かれた、先人達の行かれた道を、私もまた同じ様に歩ませていただきます。命を終えた時には、阿弥陀様のおはたらきでお浄土に生れ仏とならせていただき、すぐにこの土に還つて来て、今度は生きとし生けるものの為にはたらかせていただきます。



本願寺派布教使
丸一組・願明寺

能美 真由良

合掌

浄土にてかならずまぢまゐらせ候ふべし

親鸞聖人のお手紙は43通遺されていますが、第26通は弟子の有阿弥陀仏への返信で、七月十三日と日付は入っていますが、年代は分かりません。内容から最晩年のものと推測されています。

この身はいまはとしきはまりて候へばさだめてさきだちて往生し候はんずれば浄土にてかならずまぢまゐらせ候ふべし

有阿弥陀仏の「本当にお念仏を申すだけで、お悟りの世界(浄土)に生まれさせて頂くこと(往生)ができるのでしょうか。煩惱を断たねば浄土往生などできるはずがない、浄土の端っこ(辺地)の怠け者が集まるつまらない場所に、たどり着くのがせいぜいだ。そんなできの悪い者に対する気休めの教えを有り難がってどうする、と聞かされると心配になります」といった内容と思われる質問に、懇切丁寧に答えられた手紙の最後に添えられたお言葉です。

私も歳を重ね、明日をも知れぬ身。今年の冬は、風邪でも引けば、恐らく越えられないであろう。今生、生きて相まみえるこ

とは叶わぬことであろう。膝つき合わせ、阿弥陀さまのお慈悲を仰ぎ、よろこびあったことが懐かしいが、その時の話に、付け加えたり、訂正しなければならぬようなことはひとつもありません。大切な経文も正確に思いだすことができないし、お経を紐解いて確かめようにも、目がよく見えず、それも叶わないが、愚痴にかえりて往生す、との師匠法然さまの言葉が、しみじみとありがたく思われます。田舎の人々が、経文を一行も暗誦できずとも、仏さまのお慈悲のままにナンマンダブツとお念仏申す姿に、法然聖人は手を合わせておられた。おお、そうだ。今、私も、その田舎の人々と同じく、お慈悲のままに、お念仏申す日暮らしをさせて頂いている。

身の回りのことひとつ、人の世話にならなければやってゆけない。それなのに感謝の思いばかりではいられない。蛇やサソリのような心が蠢くのが分かる。ああ、だからこそ、お念仏ひとつで救う、と誓われたのだ。仏さまがおんぶにだっこ、ナンマ

ンダブツとお浄土に連れかえって下さる。だから安心。今生、相まみえることはなくとも、お浄土でお待ちしておりますよ……。

医療体制など、現代とは比べものにならない時代、高齢者にとって風邪は命取りの病でした。この度の新型コロナウイルスも風邪の一種ですが、感染力が強く、突然、重症化して死に至ることがあり、世界中が恐怖に陥れられました。この恐怖が、差別や偏見をうみ、それこそ蛇やサソリのように他者への非難や攻撃を誘発させられます。どうぞ大丈夫。そんな私がお目当てでした。

還暦を過ぎ、互いの体の不調を感じあつた沈黙の後、「でも、いつか死んだら親鸞聖人に会えるんだよね?それはとっても楽しみ」と明るく言い放つた坊守の言葉にはっとさせられました。病を恐れ、怯えて暮らすだけではもつたいたない。皆さんも、一緒に法座に参らせて頂きましょう。

称名



本願寺派布教使
東陽組・光圓寺

日野 安晃

「僧侶研修会報告」

二〇二一（令和三）年度僧侶研修会が八月二日、三日の二日間開かれました。今年度はコロナ禍での研修ということで、例年とは違い短縮スケジュール、従来の講義形式並びにネット配信も併せて行いました。

初日には浄土真宗本願寺派司教であられます藤田祥道先生に『大乘非仏説・仏説論について知っておきたいこと』と題しましてご講義を賜りました。初期経典の頃より、仏法の真実と利益が語られる上では仏説として扱ってきたこと、天親や無著が教法の世界は広大で甚深であること、それに反しないものは仏語であると、大乘仏説を確立させようとご尽力なされたことを分かりやすくご講義くださいました。そのみ教えが今私たちの処へ届けられてあることは、先哲や仏様のご苦労があったることと有り難く拝聴させていただきました。

二日目には部落解放・人権確立要求岐阜県実行委員会会長であられます楠眞先生に『み教えと差別の現実について』と題しましてご講義をいただきました。人権感覚を持って冷めた目で経典を読んでいくことも大切と、先生独特の表現があり深く考えさせられるきっかけになりました。また親鸞聖人も被差別者との関わりを持っておられたとお話でしたから、今現実起こる差別問題や社会問題で悩む人たちに応じて、私たち僧侶が関わり続けていくことが大切と学びました。

また次も爽りある研修会を皆様と共に受講できることを願いながら、ここにご報告いたします。



御同朋の社会をめぐる運動
岐阜教区委員会研修部部長
丸一組・願明寺

田中 秀哉
たなか ひでや

書籍の紹介

『私たちのちかい』の味わい

二〇一八（平成三〇）年一月三日、秋の法要においてご門主さまは、より広く「念仏者の生き方」の箇所をお伝えするため、その肝要を短く簡潔な四力条の言葉「私たちのちかい」としてお示しく下さいました。



釈徹宗 著

本書は、「私たちのちかい」を、一人ひとりがそれぞれに、自らのこととして、つねに身近に親しんでいただけるよう、平易な表現でその味わいを綴っております。

『いのちの荘厳 仏華』



浄土真宗本願寺派 東林寺住職
華道家元池坊 華道教授
弓場 洋子 著

一年の法要行事に合わせて、入手しやすい四季折々の花材で十二カ月の仏華を紹介。寺院の内陣用と同じ花材でお仏壇用の仏華も紹介しています。

お知らせ

岐阜別院『報恩講法要』のご案内

12月4日(土)	午前10時	日中法要
	午後1時	速夜法要
12月5日(日)	午前10時	日中法要
	午後1時	速夜法要
	午後6時	帰敬式
	午後7時	初夜法要
12月6日(月)	午前10時	満日中法要

ご講師 中川南組・光願寺

本願寺派布教使 松島法城師

●岐阜別院『報恩講法要 帰敬式』

- 期 日 12月5日(日)
- 時 間 午後6時
- 場 所 本願寺岐阜別院 本堂
- 冥加金 成人二、〇〇〇円 未成年七、〇〇〇円
- 申請方法 本願寺岐阜別院または所属寺院にお申し出ください
- 締 切 11月1日(月)別院必着

※内願(希望する漢字2字を法名として願ひ出ること)については締切が10月1日となりますため、選定法名での受式となりますこと予めご了承ください。

詳細は、本願寺岐阜別院までお問い合わせください。

YouTubeチャンネル「本願寺岐阜別院」について

岐阜別院の法要の様子を生配信いたしますのでご覧ください。

YouTube 本願寺岐阜別院

またはQRコードを読み取りご視聴ください。

